

大館北秋田地域林業成長産業化協議会  
再造林推進部会

協議記録

日時：令和3年3月10日（火）14：00～15：30

会場：大館市役所比内総合支所 2階 庁議室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 再造林部会 出席者名簿 (R3. 3. 10)

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	
			主任	畠沢 健志	
2	素材生産者	(有)阿部林業	(欠席)		
3		(有)畠山造林	(欠席)		
4		(有)花田造材部	(欠席)		
5		(有)伊東農園	代表取締役	伊東 毅	
			部長	佐藤 保	
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	
7		(有)山田造材部	(欠席)		
8		山一林業(株)	(欠席)		
9		石上木材	(欠席)		
10		小林林業	(欠席)		
11		(有)佐栄林業	(欠席)		
12		(有)中田工業	(欠席)		
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	
14	苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	(欠席)		
15		農事組合法人上仏社営農組合	(欠席)		
28	木材流通事業者	物林(株)	国産材営業室	関口 祐之	
30	市村	大館市	林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	
31		北秋田市	農林課林業振興係副主幹	藤田 学	
			農林課林業振興係主事	長岐 英泰	
32		上小阿仁村	産業課 主査	田村 勇輝	

再造林推進部会では、「令和3年度協定フィールドについて」、「令和2年度協定フィールド実績見込みについて」について協議・報告を行いました。

【協議内容】

1 開会

2 協議案件

(1) 令和3年度協定フィールドについて

<事務局（大館市）>

・令和3年度協定フィールドについて総務部会、再造林推進部会の皆様の協力で、ゾーニングや伐採数量に関する計画案を作成することができた。来週18日の第14回部会に提出するための最終協議を行たため、部会を設定させていただいた。

○施業伐区（案）について

<事務局（大館市）>

・1月27日に米代東部森林管理署主催により開催された森林共同施業団地の運営会議において、第13回部会で提出した施業伐区（案）についても協議したが、皆伐面積を増やせないか、といった要望があった。要望を踏まえ、総務部会長（大館北秋田森林組合）と協議し、約1.8haほど面積を増やした。

○計画工程表（案）について

<事務局（大館市）>

・間伐施工地から着手し、夏場の丸太搬出を避けるため、森林作業道の開設から行っていく予定。

・国有林との民国連携については合板材の協調出荷を予定しており、秋季の協調出荷を目指している。

・再造林について、2月に開催された森林・技術交流発表会において国有林で実施してきた早生樹の研究発表があり、オブザーバーの米代東部森林管理署からも早生樹の取り組みについて提案を受けているところ。協議会には苗木生産者も参画しているため、可能な範囲で試験的に取り組むことを検討している。植栽樹種はユリノキとコウヨウザンを検討中である。

◆意見交換

○早生樹について

<再造林推進部会 部会長>

・ユリノキについては現在入手が困難であり、単価もかかり増しになる可能性がある。

・コウヨウザンについては確保可能と思われる。

・現在はスギが主流になっているが、今後はカラマツも含め多様な樹種を植えていく必要があると思う。

＜再造林推進部会 副部会長＞

- ・現状、販路が確立されていない樹種であるため、実験的な取り組みになると思う。

○伐採事業計画について

＜総務部会 部会長＞

- ・間伐対象地については主に細くて本数が多い林分となっており、全体的に搬出材積数量を低く見積もっている。増えたとしても微増の見込み。
- ・主伐再造林対象地については、間伐対象地よりは径級が太いため、搬出材積数量については500m<sup>3</sup>/ha程度は見込めるのではないかと考えている。
- ・土場については、協定フィールドの周辺で地元の方の土地を借りており、協定フィールドの施業の際も土場として活用予定である。

＜事務局（大館市）＞

- ・民国連携に関連して、国有林側で公募を開始しているので確認いただきたい。
- ・協調出荷については8月頃までに協調出荷分の材積量を設定しなければならない。多めに設定すると協調出荷分の材積量の確保が厳しくなる可能性があるため、背伸びしすぎない程度で設定してまいりたい。

（2）令和2年度協定フィールド実績見込みについて

＜総務部会 副部会長＞

- ・協定フィールドの生産結果として4,120m<sup>3</sup>。製材向け約3割、合板向け約5割、チップ向け約2割となった。
- ・造材仕様として5m造材を追加し、販売単価を昨年度より若干あげることができた。
- ・グループ企業より秋田県産材の注文があり、LVL向けに35m<sup>3</sup>ほど納材した。
- ・コロナ禍で原木の納入枠の確保が厳しかったが、9月頃から徐々に回復し、結果的には滞りなく納材することができた。

◆意見交換

＜総務部会 副部会長＞

- ・LVLについては、秋田市の秋田駅や周辺施設での利用実績があり、レポートがあったようだ。今後も引き続き供給に協力いただきたい旨、工場側から話をいただいている。

＜事務局（大館市）＞

- ・コロナ禍で丸太流通が滞留し、会員の皆様も非常に苦労されたと思う。今回、広域的な流通を実践できることは今後のポイントになってくると思う。海外輸出も一部で進んでいるが、県内または国内で活用できるような仕組みを考え直す必要性を感じた。

＜再造林推進部会 副部会長＞

- ・県北地域は青森・岩手が隣接しており、立地的にも広域流通は可能と思われる。山元への還元を目指すためにも、そのような視野も持つ必要があると思われる。
- ・広域流通もだが、ぜひ地域内、特に公共施設でも積極的に活用いただきたい。

＜事務局（大館市）＞

・公共施設への木材利用については、会員の皆様にも意見聴取アンケートに協力いただいた「大館市木材利用促進計画」を策定し、令和3年度からスタートする予定である。

### 3 その他

＜事務局（大館市）＞

・大館市で2月16日に秋田県初となる「ゼロ・カーボンシティ宣言」を行った。二酸化炭素吸収・固定の観点から林業木材産業分野における取組が更に加速化されると思う。当協議会においてもゼロ・カーボンに貢献するための取組を検討する必要があるが出てくると思うので、会員の皆様のご協力をお願いしたい。

～ 閉 会 ～

# 大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R3.3.10 再造林推進部会

